



1178  
38



1178  
37



志己  
如  
禪

十九編上



小題要

13  
1178  
37

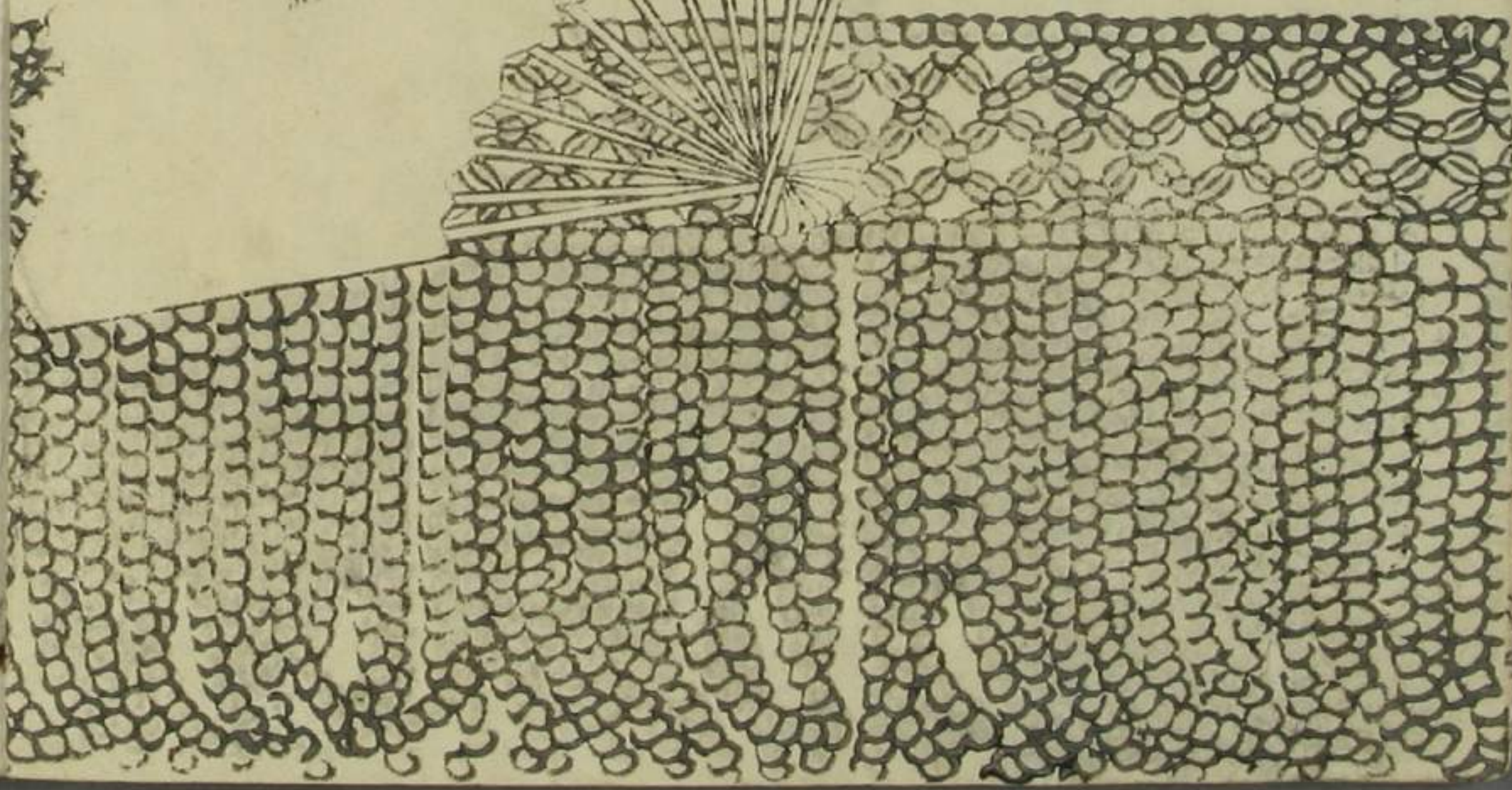
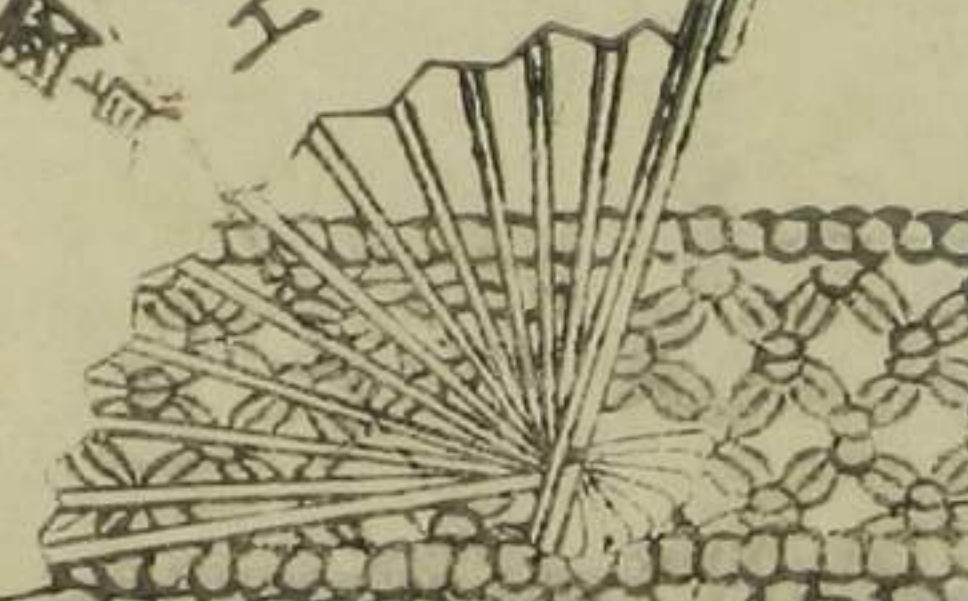
# 白縫

1178  
37

十九篇之上

集作者柳下

柳下亭種員



白縫 十九卷 上卷 十葉 香蝶 樓豐 國画

元祖慶子中村實一即能引七十余小道成寺の所作更勤容色莊年と更小愛らと伎藝も聊劣らひ都鄙群集て見物やと豊國更も古稀の重りぬる也的の麗麗さの病冠小弥倍といふ奉世愛玩といふ也近來柳史の描筆と止められて者官方増翁の画々る葉子の喝望とぞ知也名僕荒吏師の意に成細画の机上小押床十葉と強て求め彼京鹿子の文句小因らぬといふ柳本小鏡むらこの此巻も傍妻白梅の嫉妬と見えると観涼の最中鱗形の組卒が何の恨ら有明の撞鐘といふと引きこ中の現出蛇身の丈の甘毒余と云ふ異とす堵の脚小之と述

安政乙卯閑端

柳下亭種員



肥後國阿蘇郡小戸  
山賊の首領阿修羅丸



若菜 慶子



豊後國





この世の  
ことごとく  
はたして  
いかに  
なるか  
とて  
思ふに  
あはれ  
なる  
もの  
なり

この世の  
ことごとく  
はたして  
いかに  
なるか  
とて  
思ふに  
あはれ  
なる  
もの  
なり



この世の  
ことごとく  
はたして  
いかに  
なるか  
とて  
思ふに  
あはれ  
なる  
もの  
なり

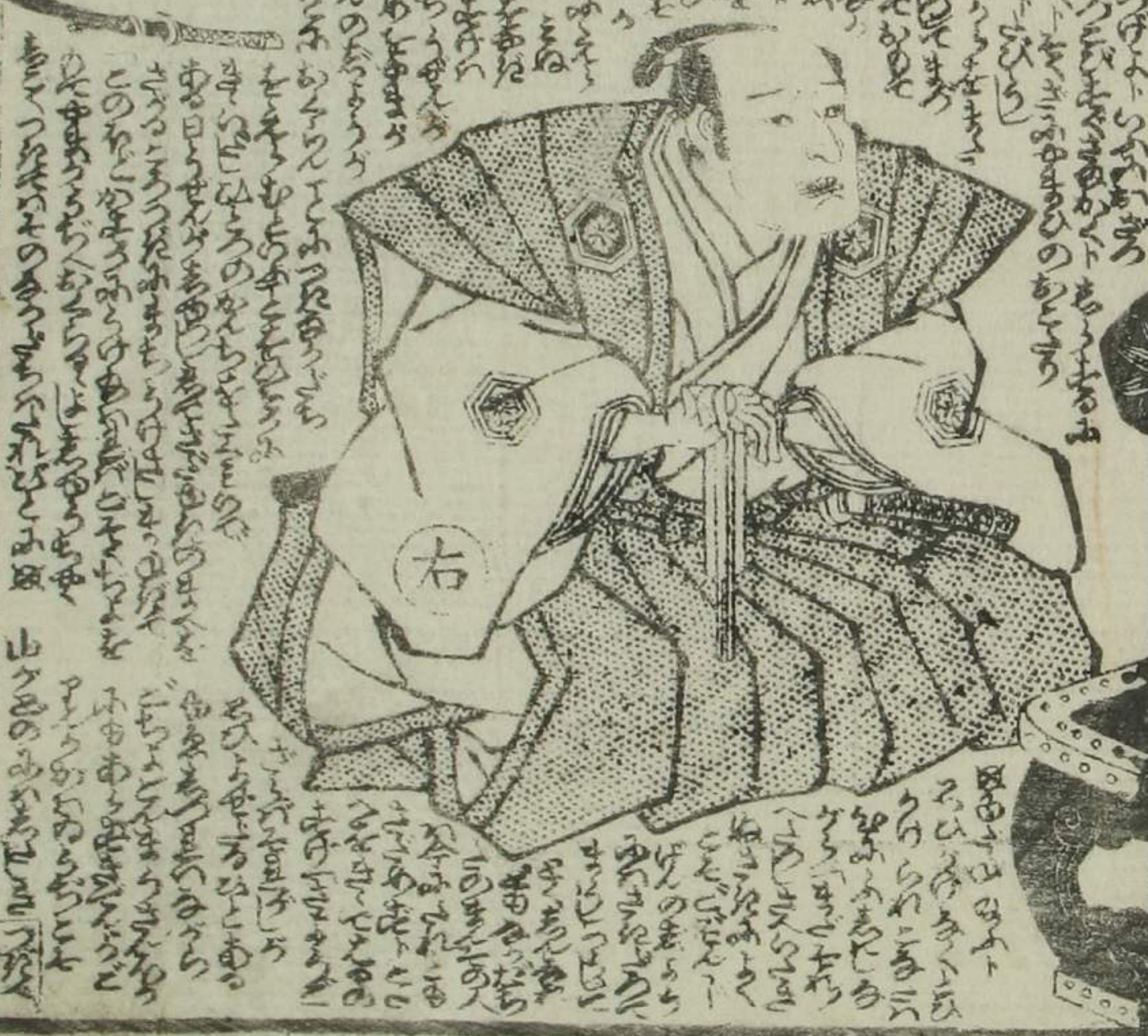
この世の  
ことごとく  
はたして  
いかに  
なるか  
とて  
思ふに  
あはれ  
なる  
もの  
なり

この世の  
ことごとく  
はたして  
いかに  
なるか  
とて  
思ふに  
あはれ  
なる  
もの  
なり

この世の  
ことごとく  
はたして  
いかに  
なるか  
とて  
思ふに  
あはれ  
なる  
もの  
なり



Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or a collection of letters. The text is arranged in vertical columns, with some sections separated by decorative lines. The script is dense and fills most of the page area.



Handwritten text in a cursive script, continuing from the left page. The text is arranged in vertical columns, with some sections separated by decorative lines. The script is dense and fills most of the page area.









Handwritten text in vertical columns, likely a commentary or a list of items, surrounding the illustration of a seated woman. The text is written in a cursive style.



Handwritten text in vertical columns, likely a commentary or a list of items, surrounding the illustration of two figures. The text is written in a cursive style.





Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a short story, located at the top of the right page.



Handwritten text in a cursive script, continuing the narrative or providing commentary, located at the bottom of the right page.

Handwritten text in a cursive script, located in the upper section of the left page.

Handwritten text in a cursive script, located in the upper section of the left page.



Handwritten text in a cursive script, located in the lower section of the left page.

志

刑  
山  
冊  
豊  
國  
画



刑  
山  
冊  
豊  
國  
画

種員作

志  
ぬ  
禪

五拾四編の初 号種彦作  
六十編にて一惠齋芳幾画

兩面織花田物語

初編ヨリ  
五編迄 同  
近 同

重作

假名讀八大傳

二十編の假名垣普文録  
二十五編の朝霞樓芳幾画

古今  
能優 似顏大全

故豊國公羽筆  
大錦 白三香續

太平記英勇傳

中 錦山々亭有人記  
百番續 惠齋芳幾圖





十九編下

柳下  
松林

へ13  
1178  
38

















肥後  
阿蘇  
山

つぎのちろろ  
ふじのちろろ  
ふじのちろろ  
ふじのちろろ  
ふじのちろろ  
ふじのちろろ  
ふじのちろろ  
ふじのちろろ  
ふじのちろろ  
ふじのちろろ

ふじのちろろ  
ふじのちろろ  
ふじのちろろ  
ふじのちろろ  
ふじのちろろ  
ふじのちろろ  
ふじのちろろ  
ふじのちろろ  
ふじのちろろ  
ふじのちろろ

寺  
高朝のあんな  
あんな大衆物  
あんな大衆物  
あんな大衆物  
あんな大衆物  
あんな大衆物  
あんな大衆物  
あんな大衆物  
あんな大衆物  
あんな大衆物

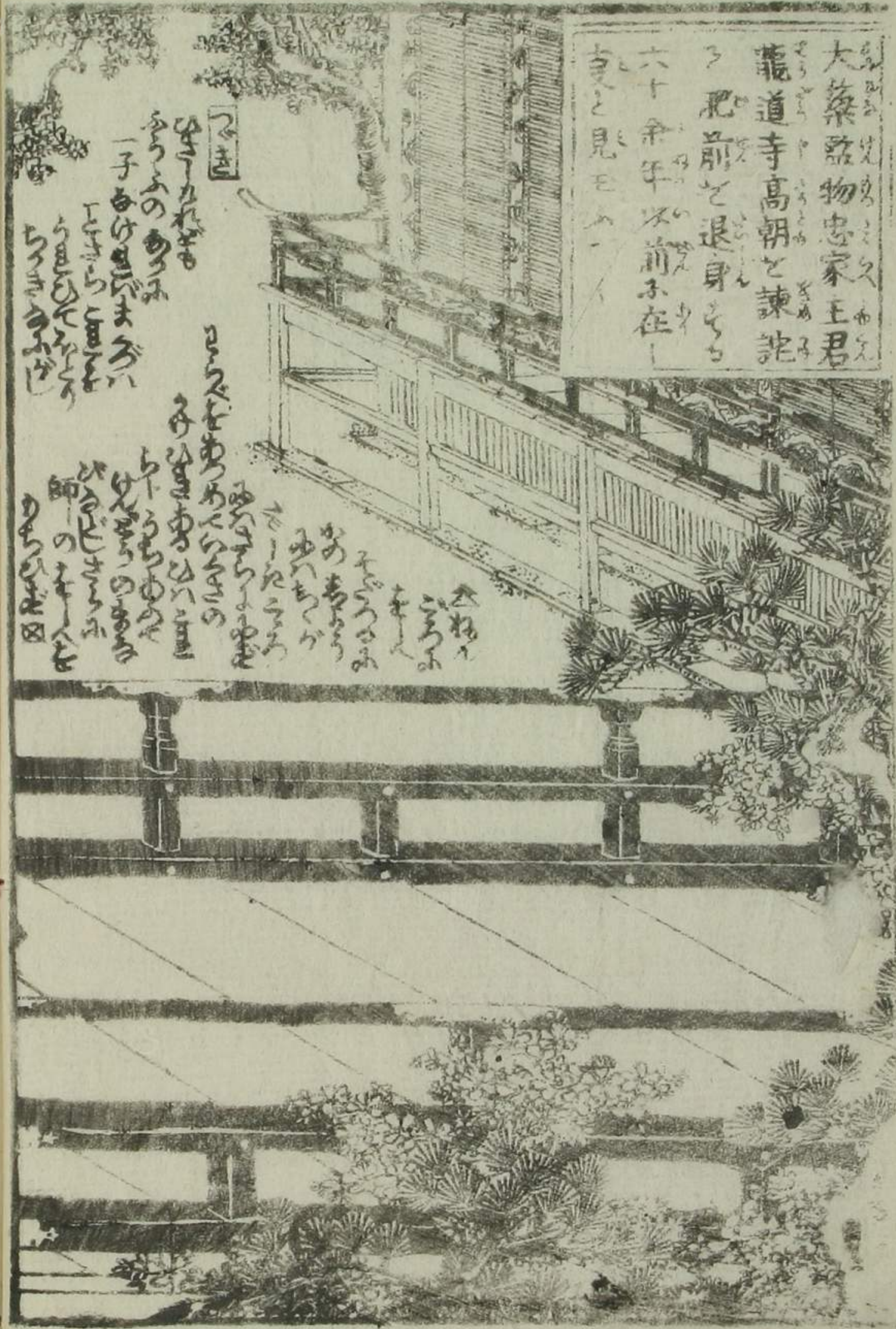
あんな大衆物  
あんな大衆物  
あんな大衆物  
あんな大衆物  
あんな大衆物  
あんな大衆物  
あんな大衆物  
あんな大衆物  
あんな大衆物  
あんな大衆物



あんな大衆物  
あんな大衆物  
あんな大衆物  
あんな大衆物  
あんな大衆物  
あんな大衆物  
あんな大衆物  
あんな大衆物  
あんな大衆物  
あんな大衆物

此の  
一丁の  
七郎島山の  
山塞に至る  
叔父惟俊の  
逢圖あり  
後の巻に  
自らほ  
吏ある

大藤隆物忠家王君  
 龍道寺高朝と諫  
 肥前と退身  
 六十余年以前不在  
 吉と見モハ



一子むけはま  
 師のまへ  
 肥前と退身  
 六十余年以前不在  
 吉と見モハ



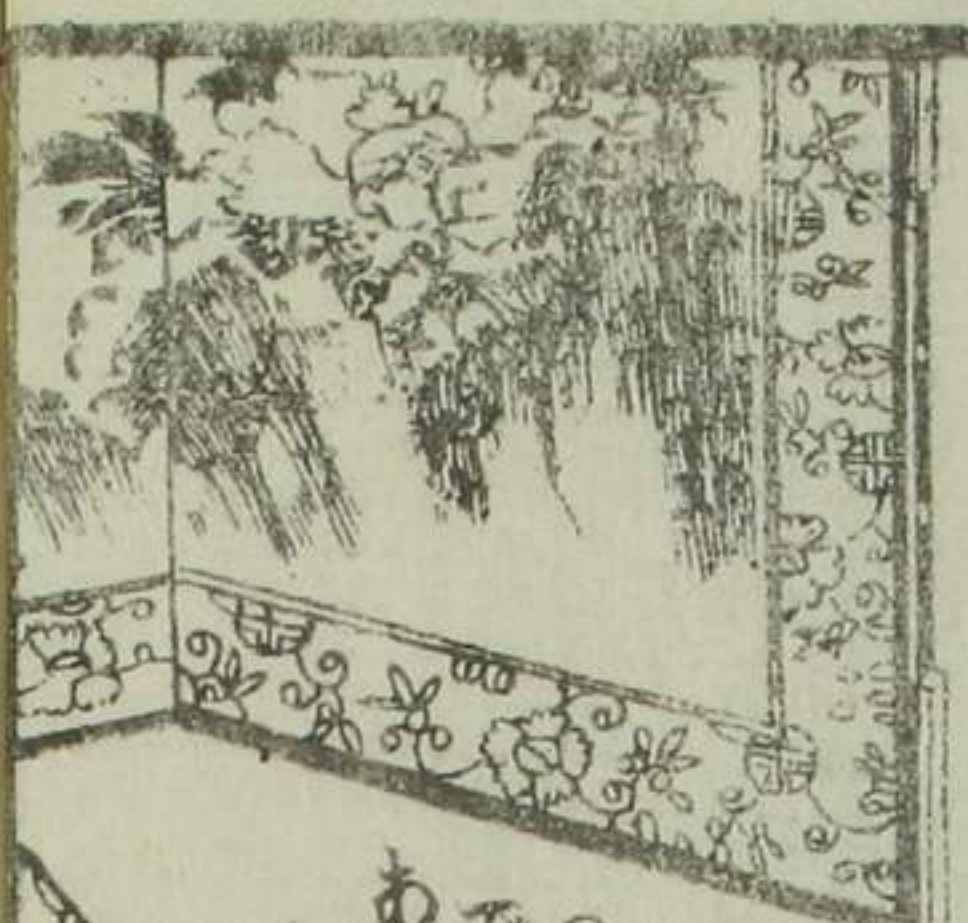
大藤隆物忠家王君  
 龍道寺高朝と諫  
 肥前と退身  
 六十余年以前不在  
 吉と見モハ





つきののしりの  
かてあの日かやせいの  
ま下をあらあまもあんの  
さのちあうをささきのよあ  
たらみのをさうちあうま  
のさ八がりちまさるであ  
ああらまるのまんか  
さあらさうさうさうさ  
てあうちのまのさうさ  
ちくさやめよのさあ  
をもひささめさるの  
さるのさうさあ  
あうまさささ  
ゆあさうさそれ  
まんとささ  
久のてひトのあを

新編のしなまのししのしし  
勝鳥かちの黒八くろ  
阿蘇あそ嶽がきの  
山塞やま不立ふた  
帰かへりて若菜わかし  
姫ひめの動勢どうせを  
告つぐ文解ぶんげの  
甘編かん不妻ふつま



種員作



種員作

阿貞画

阿貞画

阿修羅丸がわつ  
形容ハ二十編を  
讀てあり玉ふ

朝霞樓芳幾画

# 浪輝黄金鮓

三編讀切

頼川 如 泉  
山々 有 人  
惠 齋 芳 幾  
梅 素 玄 魚  
松 湖 交 來  
假 名 垣 魯 文  
可 竹 其 水 作

名譽の義賊ハ  
榎木金輔  
名譽の孝女ハ  
杉三於市  
一對男の縁小因に戯作劇場の二様小竹林ありぬ七軒人が一回五葉を持さりの  
合作全三備の三編冊 初編 初丁が其水作同 十丁が 有人作同 十丁が 交來作  
同 十丁が 如泉作 二編 初丁が 魯文作同 十丁が 其水作同 十丁が 其水同 十丁が 有人  
三編 初丁が 方魚作同 十丁が 如泉同 十丁が 魯文同 十丁が 其水如斯の持場  
定め二豆の筆カを流し写當藏板のあらゆり同様御高評の希ふ

北草紙四巻  
江戸赤門依賀町  
廣園齋幸助梓

